

夏休み中のSGH活動レポート⑤

アジアの若者と過ごした15日間

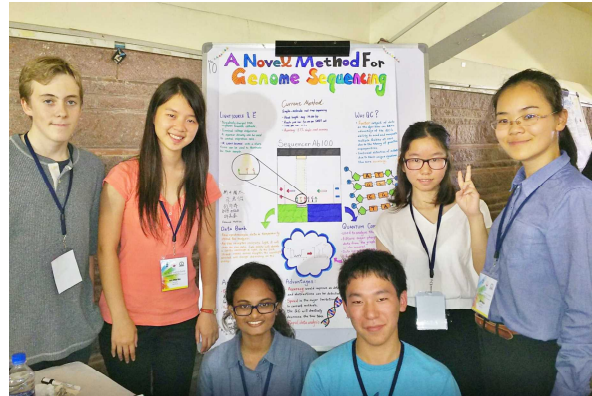
～ 新井隆太くん(2-3)の「世界への挑戦」 ～

この夏、一人の佐高生が日本の代表として、合計15日間にわたってアジア各国の高校生や大学生との様々なセッションに参加しました。以下は、新井くん本人による報告です。(写真掲載の許可は得ています)

A: アジア・オセアニア高校生フォーラム2016 (和歌山市: 7月30日から8月3日)
B: アジアサイエンスキャンプ2016 (インドのバンガロール: 8月21日から27日)



A: 高校生フォーラムでのディスカッション



B: サイエンスキャンプでのポスターセッション

A: アジア・オセアニア高校生フォーラム2016

→全国から選ばれた5名の高校生、アジア・オセアニアの20の国や地域から高校生が一人ずつと、地元和歌山県の高校生、合わせて50名が参加しました。世界共通の課題である災害対策や環境問題、観光・文化、国際問題などについて、参加者は、各々が調査、研究した成果を英語で発表し、どのように対処すべきか、高校生の視点で議論しました。

B: アジアサイエンスキャンプ2016

→日本代表として選ばれた19名の他、アジアの23の国や地域から派遣された高校生や大学生が参加し、総勢約220名が集まりました。ノーベル賞受賞者や世界のトップレベルの研究者による講演会や、講演者がリードするディスカッションセッションなどにより、科学の面白さを体験したり、生徒同士の交流を深めたりしました。

9月3日(土)の旭城祭では、**ポスター発表**を行い、多くの方々に直接、自分の体験を伝えることができました。

その際、最も多く聞かれたのは、「2つのイベントを通して一番の収穫は何か?」というものでした。

世界の国や地域の中で、英語を母国語としている国はそう多くはありません。だからこそ、自分の殻を打ち破って相手と対話する必要があります。それができる者が「国際人として活躍できる真のリーダー」なのだということに気づいたことが、一番の収穫でした。



→ 新井君が作成したポスターは、[佐高のHP](#)で見ることができます。

「アジア・オセアニア高校生フォーラム2016(和歌山)」の主な活動内容

①各国・各地域紹介

和歌山県民文化会館で、知事の挨拶の後に行われました。私は、栃木県代表として、栃木県や佐野市および佐野高校の特色や魅力について、英語で発表しました。

②分科会

チェアパーソンが2人、プレゼンターが8人の計10人で構成されたカテゴリー別に行われました。私は、環境カテゴリーのプレゼンターの1人として、"The Behavior and Effects of Exotic Turtles in Japan (日本における外来ガメの生態とその影響)"と題し、科学部で自分が研究しているミシシッピアカミミガメ(米国原産)を事例とし、世界中で問題となっている外来種を減少させ、生態系を保護し、種の多様性を維持するためにはどうすべきかを発表しました。ほかの高校の先生、各国・各地域の引率の方から、「長年蓄積されたデータを緻密に分析するとともに、大学と連携して高度な研究を行っており、素晴らしい発表だった。」とお褒めの言葉を頂きました。

③全体会

チェアパーソンが提起した問題について、プレゼンターが、それぞれ意見を発表しました。環境カテゴリーの発表では、チェアパーソンによって、"In each country or region, what can we do to protect the environment where humans and other creatures live for the future generations? (それぞれの国や地域で、未来の世代のために人や生き物の住む環境を守るには、どのようなことができるか)"という問題が提起されました。

私は、「環境を守るための取り組みを一国だけで行うことには限界がある。COPなどの国際会議をより活発に行えば、環境保全により効果的な法律の整備や条約の締結につながる。」といった内容の意見を発表しました。



全体会で発表する新井くん

「アジアサイエンスキャンプ2016(インド)」の主な活動内容

①Plenary Lectures

数学、物理学、化学、生物学の著名な研究者6名による90分ずつの講演会です。どの講義もオーディエンスからの質問が絶えませんでした。

私が特に興味を持ったのは、2015年、ニュートリノ振動の発見によりノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章氏(東京大学宇宙線研究所)の講演です。梶田氏は"Discovery of Neutrino Oscillations (ニュートリノ振動の発見)"と題して、英語で講演されました。

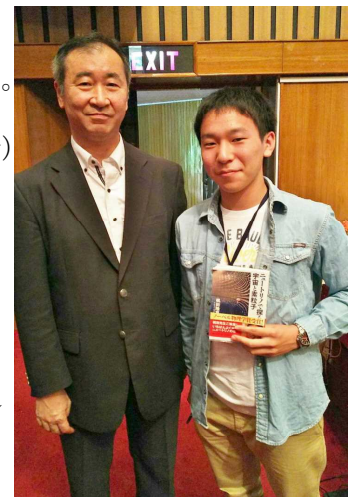
②Interactive Session

Moderatorと呼ばれる司会者が、講演を行った3人のプレゼンターにトピックを投げかけ、オーディエンスを巻き込んだ議論を行いました。

③Camp SessionとDialog Session

Plenary Lecturesよりも少人数で行われるディスカッションセッションです。私が一番興味を持ったのは、2010年、ボルツマン方程式とランダウ減衰に関する研究によってフィールズ賞を受賞されたCédric Villani氏による講演です。「複雑なことも突き詰めれば簡単になる。

数学も一見難しく感じられるが、実は非常にシンプルなのである。」という言葉や、「数学は今さまざまな業界で必要とされている。数学は世界を旅するのだ。」という言葉に、多くの参加者は拍手喝采を送りました。



梶田先生との2ショット

④Poster Presentation

アジアサイエンスキャンプのアクティビティの集大成でした。参加者が37のグループに分かれ、作成したポスターを発表するセッションです。私が所属した10班では、"A Novel Method For Genome Sequencing (ゲノムシーケンシングのためのノーベルの方法)"と題して、量子コンピュータを用いた画期的なDNAシーケンシング(塩基配列の決定)の方法を提案しました。

イングリッシュネイティブであるオーストラリア人とインド人の参加者のリードのもとに準備が進められましたが、ネイティブではない台湾や中国からの参加者が、積極的に自分の意見を発表していることに驚きました。確かな知識をベースに英語を自由自在に操って意見を発表する彼女らを見て、「そのトピックに対して自分はどのように思考するか」という意見をはっきりと自分の中に持つことの大切さを学びました。